

令和四年度

卒業証書・学位記授与式 式辞

（山村学園短期大学）

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

一昨日、東京ではソメイヨシノの桜が開花し、本学でも花と葉が同時に開花するヤマザクラが咲き始め、アーチをくぐってロータリーを歩いていくと、下向きに黄色の花を咲かせる朝鮮レンギョウ、そして職員駐車場を出たところに馬が酔う木と書く「アセビ」のスズランのような白い小さな花が皆さんを迎えております。

まさに春の若葉、そして夏の新緑・秋のどんぐり・冬の雪景、四季折々の美しくやさしさあふれるキャンパスで学んだ二年間でした。

本日は、後援会長 渡辺真佐江 様 同窓会長 あめま 雨間元良

様 学校法人山村学園より岡理事長 山村正己まひら本部長

山口・藤野両理事 にご臨席をいただいております。

子どもが好きなだけでは？

「子どもが好き」という思いは、保育者になろうとする者にとつては最も大切な志です。しかしそれだけでは、多岐にわ

たる保育者としての専門的な知識・技術を学ぶ上で
は………**感性豊かな人間性と専門的な知識・技術**、こ
の両者を持ち合わせてこそ真の保育者であるといえます。

クリステイーナ・ロセッティ の詩に

だれが風を見たでしょう わたしもあなたも見ません

けれど 木の葉がはげしくふるえているとき

風は通りすぎているのです

だれが風を見たでしょう わたしもあなたも見ません

けれど 木々のこずえが大きくたわんでいるとき

風は通りすぎているのです

ロセッティはイギリスの詩人で画家

身近な自然環境のひとつである風は、目に見えず、においもなく、その重さも意識できず、実感しにくいもの。しかし子どもたちは、風の暖かさや冷たさ、強さ、方向などを肌で感じたり、木の葉が風に揺れて動くのを目で見たり、においをかいだり、風の音を耳で聞いたりなど、日常生活の中で様々な感覚を通して感じています。子どもが園生活の中で目に見えない風を保育に活かし、体全体で感じる様々な感動体

験は、子どもの持っている全能力を発揮させるといえるでしょう。

子どもの笑顔

ふとした時に見せるウソ偽りのない笑顔。自分だけに見せてくれるこの笑顔は、保育者をやっていて心から癒される瞬間であり、この笑顔があるからこそ続けたいけると思っている保育者は多いはずです。保育者にとって子どもの笑顔は、園児の心理状況を見るためにも極めて重要、もつと言えばこの笑顔があるからこそ、このハードな仕事を続けられるのです。

日々の発見

保育者は子どもの成長を毎日、目の前で見ることが出来ます。昨日できなかったことが、今日はできるようになった。まさにその瞬間に立ち会えることができたことに喜びを感じると。そしてその姿を保護者に伝え、一緒になって喜ぶことに生きがいを見出すことにあります。

感謝、思いやり

保護者との信頼関係が生まれると、送迎の時によく話しかけ

てくれるようになります。家での話を保護者から聞くというのも保育者にとってうれしいもの。園児、保護者と一つになつてまとまっていくやりがいい。保護者や地域の方から子育ての相談を受けるなどの社会貢献の側面もあります。

保護者の皆様に一言ご挨拶を申し上げます。ご卒業、本当におめでとうございます。

本年度も昨年度に引き続きコロナウイルス感染拡大に明け暮れた年でした。昨今、外国人の観光客が増えつつあり、少し収まってきたかに見えますが、いまだに感染力の強い変異株の感染が懸念されております。

卒業生の皆さん、「さいたま景観賞」を受賞した、緑あふれるこのキャンパスを愛し、この学園に学んで良かったと思える学園生活、本短大の校歌にも歌われている「友よ やまむら」にあるように、人生にとってかけがえのない友をつくることができたこと、そして**東日本大震災やコロナウイルス**発生のように何が起こるかわからない不透明な時代、皆さんは平成、令和へ、さらに**その次の時代へと心を繋いで一層強くたくましく生きてほしいと願っています。**

今だコロナ感染が収束しない状況の中ですが、本日卒業証書授与式が保護者の皆様の参加を得挙行できたことに、万感迫る思いがいたします。

四季折々に美しい花を咲かせる自然豊かな本学、就職先や人生に行き詰ったときは、いつでも「ただいま」と言って来校するのを待っていることを約束して、式辞といたします。

令和五年三月十六日

学校法人 山村学園短期大学 学長 野口 一夫